

花園公民館

★ふれあい ☆まなび ○つなぐ
地域づくりの拠点

文責 公民館長 堀内 澄夫

第六十二回花園地区健康づくり

新春駅伝大会

優勝：古保里地区
準優勝：立岡地区
第三位：境目地区



今年の駅伝大会には、九チームの参加がありました。選手の皆さんは、沿道の熱い声援に送られて、各地区のユラフォームを着て力走されていきました。

元且に実施する地区の駅伝大会は、年々少なくなっています。花園地区は今年で六十二回目を迎え、歴史と伝統を感じます。お世話をされる役員の皆様には、心より感謝申し上げます。



一月一日の能登半島地震で尊い命を亡くされた遺族の方々や甚大な被害に遭われた皆様に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

「二十歳の祝典」盛大に開催！



今年四年ぶりに宇土市民会館大ホールで、沢山の来賓を招いての「二十歳の祝典」が、一月七日（日）に実施されました。当日、二十歳の参加者は、全員で三一九人でした。

オープニングアトラクションでは、和太鼓演奏と各中学校思い出のスライド上映が行われ、その後の式典は、厳かな中に肅々と行われました。

特に、今年二十歳を迎えられた成人の皆さんは、一番の青春時代である高校時代に新型コロナが拡大し、日常生活は様変わりし、何かと制約のある生活を余儀なくされました。改めて、コロナ前のごく当たり前の生活や人となりのつながりの大切さを実感された人々だと思えます。感謝の心を忘れずに、自分らしい生き方を突き進んでください。

第六回成人講座

「人権教育について」



今回は走潟小学校長の廣瀬先生をお招きし、「人権教育について」十二月十三日（水）にお話を

していただきました。受講生の対象者は、行政区長会、婦人会、老人クラブ、民生委員の方々と、当日は二十名の参加でした。



廣瀬先生からは、固定観念の説明では、児童の名前やランドセルや上履きの色等から男か女かを考えさせられました。また、身近な人権問題として、一枚のイラストマップを配付され、何か気になるところにチェックを入れる演習等もありました。

受講生の感想では「固定観念の意識や偏見からの行動が差別につながる事を痛感した」とか「人権感覚を磨いて、人権問題は自分のこととして捉えることの大切さを学んだ」等の声が聞かれました。

館長のつぶやき

朝の交通指導をしていますと、様々な場面に出会います。その中で、数年前から徐々に発想の転換を感じています。

私の教員時代も通学時に子供を車で送迎する場面が見られました。その頃の私はそれを見て「親は少し甘やかしてはいいか」と思っていた一人でした。でも最近、子供が車から降りて、校門前の横断歩道を渡るとその子は振り向いて母親にニコッと笑顔で手を振っています。母親も手を振って行かれます。また、ある父親と娘さんは、毎日途中まで一緒に来られて、後は、娘さんが横断歩道を渡るまで見送っておられます。当然その娘さんも校門前でお父さんに手を振って入っていきます。

今はほとんどの家庭は共働き、忙しすぎて親子の触れ合う時間が少なくなってきました。少しの時間を見つけて親子の会話がなされるの一例として、先ほど述べた場面が親子のシーンとして描かれるのかもしれない。時代と共に、親子の触れ合いに変化かな？